

昭和廿一年八月七日夜

東京市本郷区駒込上富士前町卅一一番地
財團法人 理化研究所

仁科芳雄

五木君

トルーマン聲明

左原子爆弾今度のトルーマン聲明は事実とすれば、吾々ニ「号研究の関
係者は文字通り腹を切る時、來れと思ふ。その時期につ
万五千の千貫の徑事しきと云ふ。岳は廣島から歸宅後をすからされ近東系で待機して
一千五百人うち五千人うちつらうだ。
廣島の八割
四四の一澤
でやられ死
傷し大
きなと云ふ
がた。
五木君へ
お見合
ひは
は廣島へ
岳は着て見れば奥様一月
残念ながら此問題に關してはどうも小生の第六感
であらう。
岳はトトルーマン聲明を裏書きする様である。
岳はトトルーマン聲明を裏書きする様である。
岳はトトルーマン聲明を裏書きする様である。

へた所、同じいづたらしい、要すにこれが事実とすれば
トルーマンの聲明する通り米英の研究者は日本の研
究者即ち理研の四十九号館の研究者に対する大勝
利を得たのである。これは結局に於て米英の研究者の
人情の四十九号館の研究者の人情を凌駕してゐると
云ふことを知る。

萬事は廣島から歸宅後をすらう。
論上の次の問題を検討へ置き呈示され候く。
普通の水の代りに海水を使ふとしたらウランの濃縮度
はどうの位で高むか、又多大うの量如何か。
小年は来る十一月十日には政府の豫定で兵庫が敵の機
の御令文敵機来襲の状況又は調査事項の多寡
によて旅順を更なるものと思ふと呈示され候く、乃

No. 2

昭和 年 月 日

昭和廿一年八月七日午

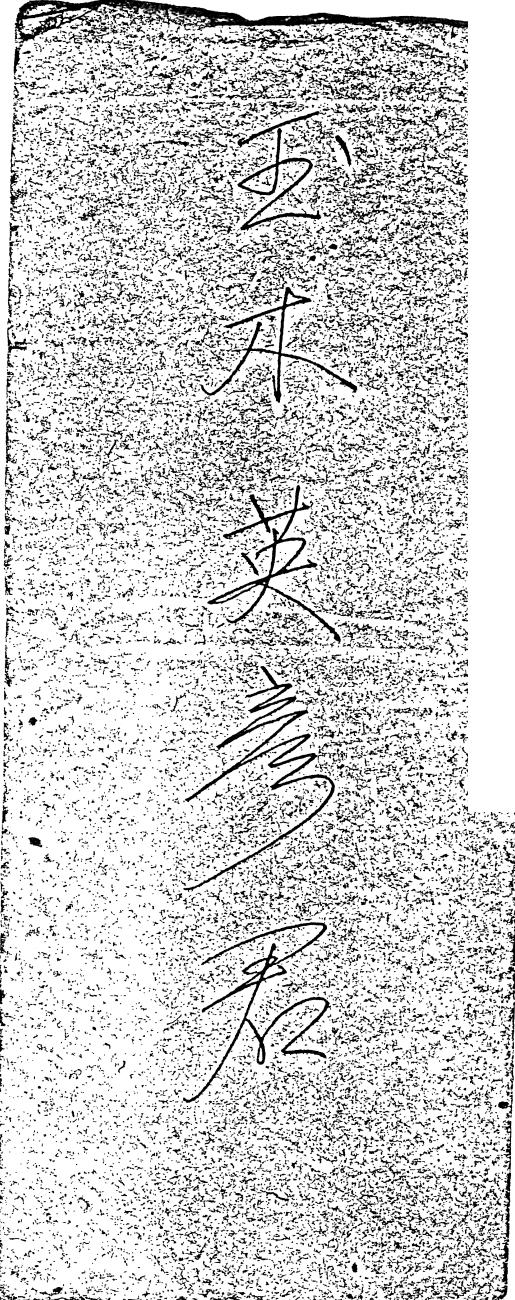
仁

科

芳

雄

財團法人理化研究所
東京市本郷區駒込上富士前町三一卷地
電話大塚(86) 三四一七一三一七四〇五一七四〇七九〇



玉木 英彦



トルトマン聲門は敵の原子爆弾、火薬一万トン、又は
トン爆弾の二千倍の威力があると述べたが、これは君の
報告の数字とよく合致してゐる。

飛行機の故障で途中から引き返して来た。早く引
き返してよがれた、山の中へ着陸したうるの様子
覺えます。ちかくも知れ無い。
明日は飛行機の都合で午後出立ます。